# 福井県勝山市猪野方言の副助詞

天野　義廣

## Ⅰ．はじめに

### ①　調査対象地

当調査は調査者が成育し現在も居住している、福井県勝山市猪野を対象地とした。

勝山市は福井市の東方約 25 キロに位置している。勝山盆地の中央部に市街地があり、その周囲に集落が点在している。盆地内を東から西へ九頭竜川が流れている。勝山市の主な産業は農業と繊維業である。観光にも力を入れ、平泉寺白山神社への参拝客の他、近年は「越前大仏」やスキー場「勝山スキージャム」などへの観光客が増えている。また勝山市は国内最大の恐竜化石の産出地で、県立恐竜博物館を現在市内に建造中である。勝山市の東部から南部にかけて大野市が位置する。

猪野は市街地から東南に約 2 キロ離れた平地にある集落で、農業を生業の中心としている。約 10 年前より集落の北側に宅地化が進み、市街地からの移住者によって猪野の人口、世帯数はかつての約 2 倍となっている。

なお平成 12 年 3 月 1 日現在の当地域の世帯数、人口は次の通りである。勝山市の世帯数 8,027、人口 29,216。猪野の世帯数 57、人口 241。

### ②　調査年月日

平成 12 年 3 月 12 日　17 時 30 分～19 時 20 分。

### ③　話　　者

天野熙子。昭和 5 年 1 月 27 日生（70 歳）。筆者の母。

話者は猪野から約 6 キロ離れた大野市乾川大門(農村)生まれで、昭和 23 年結婚によって猪野の住民となった。以後外住歴はなく、当集落で農業中心の生活をしてきた。話者は当集落生え抜きではないが、その回答結果はいずれもこれまでの筆者の勝山市での調査や内省によって得られたものの範囲内であった。

### ④　調査者・調査場所

調査者は天野義廣（50 歳）。調査者は話者・調査者の自宅。

### ⑤　調査方法

統一調査法を中心とする質問調査。なおこの調査に先立ち別の話者に調査を実施したが、質問文に即した回答を得ることが困難であった。そのため遠慮なく細かく問い直しのできる話者(調査者の母)を話者として調査をやり直した。本話者には調査の実を高めるために、あらかじめ調査の趣旨を説明するとともに質問文例の一覧を渡しておき、改めて調査者によって 1 項目ずつ調査を行った。

なお、Ⅲの「総括」に当たっては、Ⅱの質問調査で得られた事象以外に、筆者が勝山市で先に行ってきた方言調査で得られた事象、猪野方言を記述した先行文献（天野俊

也<筆者の父>「昭和時代の猪野の言葉」）に見られる事例、筆者の内省による事例も加味してまとめた。この総括に用いた事象例についてはIIの話者による確認を経た。

⑥ その他

(1) 文アクセントは高音部位に傍線を施すことによって示した。

(2) 当該事象に関する話者のコメントについては【　】で括って記した。なお【○○は言わない】と記した場合、あくまで該当の質問文についての範囲での回答である。

(3) 調査者の解釈等は＜　＞で括って記した。

(4) 当地の語中語尾のガ行音は鼻濁音であるが、本稿では「ガギグゲゴ」で表記した。

(5)対象としている副助詞が回答文例に見られる場合、それを□で囲んで示した。

(6)「II　調査結果」の項では統一調査項目に従って回答を求めたため、副助詞の累加形（「さえも」「ばかりか」など）は積極的には取り上げていない。

## II．調査結果

### (1) 添加・例示・提題などをあらわすもの

A．添加《さえ・も》

1．雨だけでなく風さえ吹いてきた。　①アメダケデノーテ　カジェ[マデ]　フイテキタ。　②アメダケデナシニ　カジェ[モ]　フイテキタ＜誘導＞。【サエは言わない。】

2．今年は豊作で、米ばかりか麦もよくとれた。

①コトシャ　ホーネンデ　コメバッカカ　ムギ[マデ]　ホーサクヤッタ　ザ。　②＜誘導＞　コトシャ　トレドシデ　コメダケデナシニ　ムギ[モ]　ヨートレタ。

B．予想外の事実《さえ・だけ》

3．小学生でさえ簡単にワープロを使っている。

ショーガクシェーデ[モ]　カンタンネ　ワープロ　ツコテル。【サエは言わない。】

4．（宝くじが）あたると思っていなかっただけに嬉しい。

アタルトオモテナンダデ　ウレシー。【ダケは言わない。】

C．条件《さえ》

5．暇さえあれば釣りに行っている。

①ヒマ[デモ]アリャー　ツンネ　イッテル。　②ヒマ[サエ]アリャー　ツリニ　イッテル。＜誘導＞

D．例示《でも・ほど・まで・など・やら・なり・なんと》

6．まあお茶でも飲んでください。

マー　オチャ[デモ]　ノンドクレ。

7．みやげにはこのまんじゅうなどどうかな。

①ミヤゲネ　コノマンジュ[グレ]　ドーヤロ　カノー。　②ミヤゲネア　コノマン

ジュ[ナンカ] ドーヤロ ノー。<誘導>【ナドは言わない。】

8．思わず跳び上がるほど嬉しかった。

①オモワズトビアガル[ホド] ウレシカッタ ワノ。 ②オモワズトビアガルクライ ウレシカッタ。<誘導>

9．まさかあなたにまで話が行くとは思わなかった。

①マサカ オメーネ[マデ]モ ハナシガツタワルトワ オモワナンダ。 ②マサカ アンタマデ ハナシガイクタ オモワナンダ。<誘導>

10．なぐるやら蹴るやらの乱暴をはたらいた。

①ナグッタリケッタリノ ボーリョクフルーテ オトロシカッタ。②ナグル[ヤラ] ケル[ヤラ]シテ アバレタ。<誘導>

11．私になり相談してくれれば良かったのに。

ウラネ[デモ] ハナシシトクレリャ ヨカッタノニ。【ナリは言わない。】

12．野菜なんていくらでもできる。

①ヤサイ[ナラ] ギョーサン トレル。 ②ヤサイ[ナンカ] イクラーデモ デキル。【ナンテはあまり言わない。】

一対の語の例示《だって》

13．しょうゆだってみそだって作っていたんだ。

①スマシ[モ]ミソ[モ] ツクッテタンニャ。 ②スマシヤッタッテ ミソヤッタッテ ツクッテタンニャ。【ダッテは言わない。】

14．私なり弟なりがお手伝いに行きます。

①ウラ[デモ]オトト[デモ] テッタイネ ヨシテモラウ デノー。 ②ウラ[カ]オトートガ テッタイネ イケスー。<誘導> ③ウラ[ナリ]オトト[ナリ] テッタイネ エケンス。

例外でない《とて》

15．村長とて、そうするより仕方なかったんだろう。

①ソンチョサン[デモ] ホーシルヨリ ドモナラナンダンヤロ。 【トテは言わない。】

列挙《も》

16．春らしくなって、梅も桜も一度に咲いた。

①ハルラシナッテ ンメ[ヤラ]サクラ[ヤラ] イッペンネ サケンシタ。 ②ハルラシナッテ ンメ[モ]サクラ[モ] イッペンネ サイタ。<誘導>

同類の暗示《も》

17．テレビもそろそろ買い替えよう。

テレビ[モ] ソロソロ カイカエヨー。

やわらげ《でも》

18. まあお茶でも飲んでください。

①マー　オチャ[グレ]　ノンドクネンシェ。　②マー　オチャ[グライ]　ノンドクネンシェ。　③マー　オチャ[デモ]　ノンドクレ。<誘導>

E. 包括《など》

19. 盆には子や孫などが帰ってくる。

①ボンネア　コヤマゴドモガ　ケンスンニャ。<ケンスンニャは「来るんですよ」の意。>　②ボンニワ　コドモヤマゴラガ　カエッテクル。<誘導>　【ナドは言わない。】

F. 提題《だって》

20. ゲートボールだってできるよ。

①ゲートボール[モ]　デキル。　②ゲートボールヤッタッテ　デキル。<誘導>　【ダッテは言わない。】

話題にあげる《って》

21. 何だい、いいことって。

①ナンヤノ、エーコトチューノワ。　②ナンエネ、エーコト[ッテ]。<誘導>

極端なものの提示《でも・くらい・すら・も》

22. そんなこと子供にでもできるよ。

ホンナコト　チネーコネ[デモ]　デキル　ワ。<チネーは「小さい」の意。>

23. 食べることくらいは何とかしたい。

①タベルコト[グレ]ワ　ナントカシェンナン。　②タベルコト[グライ]ワ　ナントカシテー。

24. 名前すらろくに覚えていない。

①ナマエ[サエ]　ロクスッポ　オボエテンノヤ。　②ナマエ[マデ]　ロクニ　オボエテン。【スラは言わない。】

25. 弁当代に千円もかかった。

ベントーダイネ　シェンエン[モ]　カカッタ。

軽いものをあげる《さえ》

26. これさえあればもう大丈夫だ。

コレ[サエ]アリャー　モー　アンシンヤ。

**(2) 分量・程度・基準などをあらわすもの**

G. 分量・程度《ほど・くらい・ばかり》

27. 旅行で三日ほど家をあけた。

①リョコーデ　ミッカ[グレ]　イエ　ルスニシェンシタ。<シェンシタは「しました」の意。>　②リョコーデ　ミッカ[ホド]　ウチ　アケタ。<誘導>【ホドはホッド、ホンドとも言う。】

28．茶碗に半分くらいください。

コノチャワンニ　ハンブン[ホド]　オクレ。【ハンブングレ(「半分くらい」のなまった形)も言う。】

29．子供にでもわかるくらいのやさしい本だ。

コドモデモワカル[グレ]ノ　ヤサシーホンヤ。

30．一週間ばかり留守にするので頼むよ。

イッシューカン[ホド]　ウチアケルデ　オタノモシェンス　ノー。【バカリは言わない。】

H．基準《ほど》

31．今年の寒さは去年ほどではない。

コトシノサブサワ　キョネン[ホド]デァ　ネー。

32．ちょっと油断したばかりにとんでもないことになった。

チョットキーヌイタ[バッカ]ネ　ヘデーコト　ナッタモンヤ。【バカリとは言わないでバッカと言う。】

J．「それにふさわしく」《だけ》

33．苦労しただけあって人間ができている。

①クローシタケド　ソノブン　ニンゲンガデキテル。②ヨー　クローシタデ　ニンゲンガデキテル。<誘導>【ダケも言うことがある。】

形式名詞的用法《なんか》

34．毎日孫の守りやなんかで忙しい。

①マイニチ　マゴノモリヤラ[ナンヤラ]デ　イソガシー。<誘導>　②マイニチ　マゴノモリシタリナンタリデ　イソガシー。<誘導>

「それこそ」《こそ》

35．それこそバケツをひっくりかえしたような大雨だ。

ソレコサ　バケツヒックリカヤイタヨーナ　オーアメヤ。【ホレコサとも言う。】<ソレコサはソレコソワの熟合形。共通語のソレコソと同様に言う。しかし普段の生活ではソレコソとはあまり言わないようである。>

「～ばかりか」《ばかり》

36．父ばかりか母もスポーツ好きだ。

①　トーサン[バッカ]デノーテ　カーサンモ　スポーツズキナンヤ。　②オトーサンモ　オカーサンモ　スポーツズキヤ。<誘導>【バカリは言わない。】

K．今にも行われる《ばかり》

37．もう食べるばかりにしてある。

①モー　タベル[マンマ]ニ　シテアル。　②モー　タベレルヨーニ　シテアル。【マンマはママ、マーマとも言う。】【バカリは言わない。】

動作の完了直後《ばかり》

38. 今、仕事から帰ったばかりだ。

①イマ　シゴトカラカエッタ[バッカ]ヤ。　②イマ　シゴトカラカエッタトコヤ。<誘導>

基準《まで》

39. 駅までもうちょっとだ。

エキ[マデ]　モーチョットヤ。

L. 等量の反復《ずつ》

40. 一人ずつ呼んで話をした。

ヒトリ[ズツ]ヨンデ　ハナシシタ。【まれにズツを[ドツ]とも言う。】

M. 等量の配分《ずつ》

41. 一人に二個ずつみかんをやる。

ヒトリニフタツ[ズツ]　ミカン　ヤル。

**(3)　限定・限界などを表すもの**

N. 限定《しか・だけ・ばかり・きり》

42. 酒はたまにしかのまない。

①サケワ　タマネ[シカ]　ノマン。　②サケワ　タマニ[ナシ]　ノマン。<誘導>

43. 今朝は寝坊をしてパンだけ食べて来た。

①ケサワネボーシテ　パン[ダケ]　タベテキタ。　②ケサワネボーシテ　パン[シカ]タベテコナンダ。<誘導>

44. そんなに勉強ばかりしていると体に毒だよ。

ソンネベンキョ[バッカ]シテルト　カラダニドクヤ　ザ。

45. うちの田が残っているきりで、よそは全部終わった。《田植えのこと》

コンノター　ノコッテル[ダケ]デ　ヨソノワ　ジェンブ　スンデモタ。【キリは言わない。】

O. 強調《しか・こそ》

46. もうこれだけしかないよ。

モー　コッダケ[シカ]　ネー　ザ。

47. 今年こそいい年にしたい。

①コトシワ　エートシネ　シタイ。　②コトシ[コソ]　エートシネ　シタイ。<誘導>【②のようにコソを使うことはまれ。】

P. 限界《だけ・まで》

48. これだけ言っても分からないのか！

①コッ[ダケ]ユーテモ　ワカラン　ノカ。　②コレ[ホド]ユーテモ　ワカラン　ノカ。<誘導>

49．2千円くらいまでなら、何とかなる。

①ニシェンエンクレ[マデ]ナラ　ナントカナル。　②ニシェンエングレ[マデ]ヤッタラ　ナントカナル。<誘導><「～くらい」はクレともグレとも言う。>

**(4) 陳述的なもの**

Q．「～ば～だけ」《だけ》

50．肥料をやればやるだけよく育つ。

①ヒリョーヤッタラ　ヤッタ[ダケ]ノコトワ　アル。②コヤシヤリャー　ヤル[ホド]ヨー　ソダッ。<誘導>

「仮定形・ば・こそ」《こそ》

51．心配すればこそ言うんだ。

①シンパイスッデ　ユーテルンニャ　ザ。　②シンパイヤデ　ユーンニャ。<誘導>【コソは言わない。】

「こそ・仮定形」《こそ》

52．彼は文句こそ言え、人の言うことなど聞かない。

アノヒトワ　モンクワユーケド　ヒトノユーコトナンカワ　キカン。　【コソは言わない。】

53．「～でこそあれ《コサレなども》」という言い方はありますか。

なし。

「未然形・ば・こそ」《こそ》

54．押しても引いても動かばこそ。

このような言い方はしない。

「こそ。」《こそ》

55．失礼なことを言わないでこそ。

このような言い方はしない。

「～こそ～が」《こそ》

56．今でこそ家から出ないが、昔はよく出歩いていた。

イマデコサ　ウチカラデンケド　ムカシャ　ヨー　デアルイタモンヤ。【コソも言うが「コサ」の方をよく言う。】

「～ば～ほど」《ほど》

57．働けば働くほどもうかる。

①ハタラキャー　ハタラク[ダケ]モーカル。　②ハタラキャー　ハタラク[ホド]モーカル。<誘導>

R．打ち消しとの呼応《まで》

58．村長に聞くまでもないことだ。

ソンチョサンネ　キク[マデ]モネーコッチャ。

否定との呼応（それさえもない）《も》

59. 朝から忙しくて昼飯も食えない。

アサッバラカラ　イソガシテ　ヒルメシ[モ]　クエン。

否定的取り上げ《など》

60. こんなものなどいくらでもあるよ。

①コンナモン　イクラーデモ　アッ　ザ。　②コンナモン[ナンカ]　イクラデモ　アッ　ザ。<誘導>

全面否定《だって》

61. 誰だってそんなことを言われたら怒るよ。

①ダレヤッタッテ　ソンナコトイワレット　オコル　ザ。　②ダレ[デモ]　ソンナコトイワレタラ　オコル　ザ。<誘導>【ダッテは言わない。】

S．次の動作が不可能《きり》

62. 10年前に故郷を離れたきり、一度も帰っていない。

①ジューネンマエネ　ムラハナレタ[マンマ]　イッペンモカエッテン。　②ジューネンマエニ　ムラデテッタ[キリ]　イッペンモカエッテン。<誘導>

**(5) モダリティー的なもの**

T．不確かな気持ち《やら・か》

63. いつのまにやら眠ってしまった。

①イツノマンニ[ヤラ]　ネテシモタ。　②イツノマンニャシラン　ネテモタ。<誘導>

64. 何のことか分からない。

①ナンノコッチ[ヤラ]　ワカラン。　②ナンノコトカ　ワカラン。<誘導>

推定《か》

65. あとで遊びに行くかもしれない。

アトデ　アスビニイク[カ]モ　シレン。

どちらか分からない《やら》

66. 来るのやらこないのやらよく分からない。

①クルン[カ]コンノ[カ]　ヨー　ワカラン　ナー。　②クルンニ[ヤラ]　コンノ[ヤラ]　ヨー　ワカラン。<誘導>

はっきり言わない《やら》

67. どこやらへ引っ越したそうだ。

①ドコヤシラン　カワッタソーヤ　ナー。　①ドコ[ヤラ]へ　ヒッコシタソーヤ。<誘導>

U．非難《たら・てば》

68. お父さんたら今日も遅いのね。

①オトーサン　キョーモ　オソインニャ　ノー。　②オトーサン[タラ]　キョーモ　オソインニャ　ノー。<誘導>

69．お父さんてば、子供のようなことを言って。

オトーサン[タラ]　コドモミテナコト　ユーテ。【テバは言わない。】

## Ⅲ．総括

### 1　Ⅱの調査項目に掲げられた副助詞のうちで、猪野方言で見られない語形のもの

これについては以下の6種がある。(50音順)　なお（　）内の数字は質問文の番号である。

[スラ](24)・[ダッテ](13・20・61)・[テバ](69)・[トテ](15)・[ナド](19・60)・[バカリ](37)

※　ただし「バカリ」の異形態「バッカ」「バッカシ」「バッカリ」は猪野方言に見られる。

### 2　Ⅱの調査項目に掲げられていない副助詞で、猪野方言で見られる語形のもの

これについては以下の12種類がある。(50音順)

[ガ]　「ほど（程度)」の意。買い物の際にしか言わない。　イモダネ　シェンエンガ　ワケトクレ。(種芋を千円分売ってください。)

[カラ]　「～くらいかそれ以上（程度)」の意。　ランプノホヤミガクト　アカリガ　バイカラチゴタ。(ランプの火屋を磨くと明るさが倍かそれ以上違った。)

[ガラ]　前に「ガ」を伴って、「～それぞれ」の意。　ジューニンガジューニンガラ　チガウ。(<性分というものは>十人いたとして十人とも<それぞれ>異なる。)

[コサ]　「こそ（強調)」の意。「コソ+ア」の熟合形。　ホレコサ　ステルホド　アッタ。(それこそ捨てるほど<たくさん>あった。

[ドツ≒ドーツ]　「ずつ」の意。　アメ　フタツドツ　ヤロ。(飴を二つずつやろう。)　コートシモン　ヒトツドーツ　ユエ。(買ってほしいものを一つずつ言え。)

[トモ]　数量を表す語について、「その全体を」の意。フタツトモ　ホシ。(二つともほしい。)

[ナシ]　「しか（限定)」の意。ヒャクエンナシ　ナインニャ。(百円しかないんだ。)　カヨービナシ　アイテン（火曜日しか体が空いていない。)

[ナト]　「なり<例示>」の意。「なりと」の熟合形と考えられるが当地では普通「なりと」と言わないので、一語と認定したい。　オツケナト　オカワリ　ダイトクンネヘン。(汁なりと<なんなり>お代わりを出してください。)

[ハカ≒ハンカ]　「しか（限定)」の意。高齢者が言う。ソレハカ　ナイ。(それしかない。)　イノシシワ　イッペンハンカ　ミタコトゴヘン。(猪は一度しか見たことがありません。)

[ホッド≒ホンド]　「ほど（程度)」の意。　エーヘージワ　ゴヘンホッド　マイッタ。(永平寺には五回ほど参詣した。)　オーカタ　ヒチワリホンド　カレテモタ。(おおよそ7割ほど枯れてしまった。)

[モテラ]　「～まるごと・～ぐるみ」の意。　フルシキモテラ　モロテキタンニャ。(風呂

敷も含めてもらってきたんだ。)　なお次のように「マルモテラ」という副詞もある。ジューバコノシェキハン　ヒトリデマルモテラ　タベテモタ。(重箱の赤飯を一人でまるごとすっかり食べてしまった。)

ヤシ　「いつ・どこ・誰」について、次のように用いる。後に打消し語を伴う。　イツヤシイッテモ　イナハラン。(いつでも行ったって、<その人は>おられない。)　ドコヤシイッテモ　ジェンマイワ　トレン。(不用意にどこでも言ったところで、ぜんまいは採れない。)　ダレヤシニ　ユーナヤ。(誰でもに口外するなよ。)

※　以上は語形面から注目すべきものを挙げたが、意味用法から見ると、次のものが注目される。

ナリ　①「～したまま」の意。　トーアケタラアケタナーリ　ベーヌイダラヌイダナーリ　イクラユーテモ　ナオランコーヤ。(戸を開けたら開けっぱなし、服を脱いだらぬぎっぱなし、いくら言ってもなおらない子だ。)　②「～するや否や」の意。　ウチツクナリ　ベンジョ　トビコンダ。(帰宅すると即便所にとび込んだ。)

## 3　猪野方言の副助詞一覧

上記2・3を踏まえると、猪野で用いられる副助詞は、語形の上から見て次の29種であると言える。ただし異形態どうしは「≒」でつないで示し、便宜上それらを1語種として扱ってある。

カ・ガ・カラ・ガラ・キリ・クライ≒グライ≒クレ≒グレ・コサ・コソ・サエ・シカ・ズツ≒ドツ≒ドーツ・ダケ・タラ・ッテ・デモ・トモ・ナラ・ナリ・ナシ・ナト・ナンカ・ハカ≒ハンカ・バッカ≒バッカリ≒バッカシ・ホド≒ホッド≒ホンド・マデ・モ・モテラ・ヤシ・ヤラ≒ャラ

※　IIの質問文例に見られる副助詞（共通語）で猪野で用いられないのは次の6種である。（上記2参照）　《スラ》《ダッテ》《テバ》《トテ》《ナド》《バカリ》

※　なお本統一調査項目では、語形から見て（意味用法は別として）24種の副助詞が掲げられている。

## 4　IIの質問文で副助詞に相当する部分を連語や名詞・接辞などで回答している例（抄出）

副助詞を用いないで質問文と同様の文意を表す回答のうち、副助詞に相当する部分を副助詞以外による表現で回答している例にはたとえば次のようなものがある。

19. 盆には子や孫などが帰ってくる。　→　ボンニワ　コドモヤマゴラガ　カエッテクル。

21. 何だい、いいこと《って》。　→　ナンヤノ、エーコトチューノワ。

38. 今、仕事から帰った《ばかり》だ。　→　イマ　シゴトカラカエッタトコヤ。
名詞「トコ（所）」の副助詞的用法であると考えられる。

61. 誰《だって》そんなことを言われたら怒るよ。　→　ダレヤッタッテ　ソンナコトイワレット　オコル　ザ。

（あまのよしひろ　仁愛女子短期大学）